

北海道肉牛研究会 ニュース

No.22 2017.8.23

北海道肉牛研究会事務局
北海道立総合研究機構畜産試験場
肉牛グループ・技術支援グループ
〒081-0038
北海道上川郡新得町字新得西5線39番地1
Tel :0156-64-0610 FAX:0156-64-3212

第11回全国和牛能力共進会 開催迫る！

第11回全国和牛能力共進会宮城大会（平成29年9月7～11日）の開催まで、2週間を切りました。昨年、11月から行っていた7、8および9区にエントリーした牛の超音波による肉質診断も無事終了し、6月29日の北海道最終選抜会で各区の代表牛が決定しました。

代表牛は下の表のとおりです。

出品区		名号	父	出品団体名	出品者
第1区	若雄	雪花国	花国安福	(株)十勝家畜人工授精所	
		英貞	勝早桜5	(一社)ジェネティクス北海道	
第2区	若雌の1	しらゆりひめ	勝早桜5	鶴川町和牛改良組合	加藤 啓介
第3区	若雌の2	ちちんぷいぷい	勝早桜5	今金町和牛生産改良組合	木島 隆浩
第5区	繁殖雌牛群	しらきたかつ	北平安	十勝和牛振興協議会	山田 貴赦(幕別)
		ひらたちばな			菅野 英夫(更別)
		しげやす			三野宮秀和(音更)
		みかん			清水 和博(足寄)
第6区	高等登録群	ななゆり	百合茂	今金町和牛生産改良組合	佐藤 弘一
		ななよし	芳之国		
		ななかつ	勝早桜5		
第7区	総合評価群 (種牛群)	ひさしげ4	勝早桜5	十勝和牛育種推進部会	斉藤 雅登(幕別)
		みはや			多田 隆一(池田)
		さくらりゅう			安藤 誠(豊頃)
		はやひさかつ			清水 孝悦(池田)
	総合評価群 (肉牛群)	鼈甲丸			上士幌町農協肥育センター
		勝早792			(農)サンエイ牧場(大樹)
		七桜			山田 貴赦(幕別)
第8区	若雄後代 検定群	大翔福	北翔王	更別和牛改良組合	(有)美郷牧場
		宏薫桜706	白老和牛生産改良組合	石川 宏	
		北百合安	小平町和牛生産改良組合	前崎 正弘	
第9区	去勢肥育群	頂天	勝早桜5	江別和牛生産改良組合	(有)パージンハートファームジャパン
		北花国	花国安福	上士幌町和牛生産改良組合	上士幌町農協肥育センター



左の写真は、第7区総合評価群（肉牛群）に出品される、農事組合法人サンエイ牧場の「勝早792」号を7月28日に撮影したものです。

「勝早792」号は、発育が非常に良く、超音波画像からは、僧帽筋が大きく、皮下脂肪が薄く、サシもよく入っていたことが確認でき、活躍が期待されます。

北海道オーガニックビーフ振興協議会が設立

平成29年4月20日に北海道オーガニックビーフ振興協議会の設立総会が行われ、協議会の設立が了承されました。

北海道では、北里大学八雲牧場が2009年に全国に先駆けて肉用牛の有機畜産物JAS認定を取得し、オーガニックビーフの生産技術を蓄積してきました。このオーガニックビーフ生産技術を普及拡大し、流通させることが、国際的に日本の食材の安心・安全、多様性を示す絶好の機会となります。

北海道オーガニックビーフ振興協議会では、北海道の日本短角種・アンガス種等の生産者が有機畜産物JAS認定を取得することをサポートし、オーガニックビーフの生産、マーケットの拡大を図り、赤身牛肉の価値を高めて行くことを事業の柱としています。現在は、ファームミーティングの開催や各種イベントでのPR活動、畜産クラスター立ち上げ等を行っています。

10月に行われる北海道肉牛研究会大会で、北海道オーガニックビーフ振興協議会の取り組みが紹介される予定となっています。

HOKKAIDO ORGANIC BEEF ASSOCIATION

生産牧場ガイド

北里大学獣医学部附属 フィールドサイエンスセンター 八雲牧場

北海道二海郡八雲町

経営理念
現行の穀物多給の畜産方式からの脱却を図り、未利用資源を最大限に活用した経済性も含む畜産方式の確立とその科学的意義の検証と学生教育を行います。

経営形態
日本短角種系繁殖肥育一貫経営 223頭 220ha

牧場PR

- 化学肥料と農薬を一切使用しない草地から得られる飼料(牧草)とその草地管理技術、日本初肉用牛で有機JAS認定を取得(2009)しました。
- 出生から出荷まで穀物飼料を一切給与せず、平均月齢25ヶ月齢で正体重700kg超えを達成(去勢雄)しました。
- 脂肪文様(サシ)がほとんど入らない完全国産粗飼料のみで生産される「真の赤身牛肉」を生産しています。

様澤牧場

北海道釧路市

経営理念
畜畜に人間が食べない物を餌として与え人間の食料とする、循環型の畜産の原点を貫いていきます。

経営形態
アンガス繁殖肥育一貫・家族経営 212頭 141ha

牧場PR

- 丹頂の里釧路の大平原で、放牧主体で育てています。
- 牧草のほかに道内の食品副産物を与え、そのため飼養期間が長くなりますが、それが肉の味を調べていきます。
- NPO法人環境リサイクル肉牛振興協議会認定e-ビーフ認定第1号取得しました。2010年全国優良畜産経営技術発表会にて最優秀賞農林水産大臣賞を受賞しました。

農事組合法人 駒谷牧場

北海道様似郡様似町

経営理念
牛は本来草食動物であり、人間の食べられない草を食べお肉を生産し、そのお肉を良質な蛋白源として我々人間が戴く。この畜産の原点に立ち返り、牛が本来持っている能力を最大限に発揮させることにより、寒さ厳しい北海道でも一年中完全放牧で、穀物を一切与えず草のみでも牛は育つのだということを発信できる牧場経営を目指しています。

経営形態
アンガス繁殖肥育一貫・家族経営 62頭 120ha

牧場PR

- 牛の生態系に限りなく近づけた飼育方法。(自然交配、自然分娩、自然哺育)
- 周年完全林間放牧。
- 穀物を一切与えず、完全に草のみで育てます。
- 牧場内全てに於いて農薬、化学肥料は一切使用しません。

短角王国たかはし牧場

北海道札幌東区えりも町

経営理念
地域内穀物、未利用資源の活用で地域循環畜産を進めています。短角牛の美味しさで人を幸せにすることです。

経営形態
日本短角種系繁殖肥育一貫・家族経営 303頭 172ha

牧場PR

- 遺伝子組み換えしない飼料、農薬を使わない草地で作られる牧草、エコフードで健康に育てています。
- 太平洋に面した小高い丘にある放牧地で、8か月間親子がのびのびと育ちます。
- 国が進める地理的表示保護制度(GI)に申請中です。
- 16年に6次化取り組み、ファームイン・直売店「守人(まもりと)」を開設し農からの発信・交流を行っています。

北十勝ファーム有限会社

北海道足寄郡足寄町

経営理念
雄大な自然の優しさで厳しさを、そして人間の英知と努力、その調和の中にこそ本物の農業、本物の食、本物のおいしさがあります。

経営形態
日本短角種系繁殖肥育一貫・会社経営 600頭 250ha

牧場PR

- 美味しく安全な牛肉生産を目指し、配合飼料に頼らず国産飼料を自社ブレンドし給与することを30年前から続け、今日では国産飼料97%を達成している。更に25年前から安全安心な原料を使用することにこだわっています。
- 明治中期に十勝に入植して以降、畜産業に携わってきた歴史と経験を次世代に繋げていき、また、新規就農を斡旋し若者を育てています。
- 牧場内に公共の水道が1本も入らず、天然湧水を使用しています。
- アニマルウェルフェアに取り組み、畜畜と人間がストレスなく良好な関係を築いています。

畜産試験場で実施した研究紹介

黒毛和種における「肥育地の効果」を活用した肥育管理改善点の提示法

普及センターや農協では、枝肉成績から肥育農家の問題点を抽出し、肥育技術の改善を行っています。枝肉成績には肥育農家の技術の他、肥育牛の遺伝的能力（育種価）も大きく影響しており、指摘した問題点が適切ではない場合があります。育種価評価の際には、肥育農家の技術力を示す「肥育地の効果」が算出されていましたが、実際の肥育管理との関連については検討されていませんでした。

そこで、「肥育地の効果」を指標として、肥育管理が枝肉成績に及ぼす影響を数値化することで、肥育農家の問題点や改善効果を客観的に提示する技術の開発を行いました。



「肥育地の効果」と肥育管理の関係を表1に示しました。枝肉重量の「肥育地の効果」に対しては、配合飼料の種類（給与量や飼料会社による技術指導を含む）による影響が最も大きく、敷料交換頻度、飲水施設の種類の順に影響が大きいことがわかりました。特に、敷料を交換する頻度が1週間以内の肥育農家は、他の農家より枝肉重量の「肥育地の効果」が約15kg大きい結果となりました（図1）。脂肪交雑の「肥育地の効果」に対しては、配合飼料の種類、敷料の種類、飲水施設の種類の順に影響度が大きい結果となりました。これらのことから、敷料をこまめに交換するといった管理の改善によって、枝肉成績の向上が期待されます。

表1 「肥育地の効果」と肥育管理の関係

枝肉成績	各肥育管理の影響度 (%)								
	飼養密度	餌槽幅	敷料の種類	敷料交換頻度	飲水施設の種類の	飲水加温の有無	粗飼料細切の有無	配合飼料の種類	残差
枝肉重量	5.2	2.2	6.7	20.0	8.5	2.1	0.1	43.9	11.3
脂肪交雑	1.8	0.7	11.8	1.0	9.5	0.2	5.2	63.2	6.5

* 赤字で示したものは1%水準で有意な項目、太字で示したものは5%水準で有意な項目

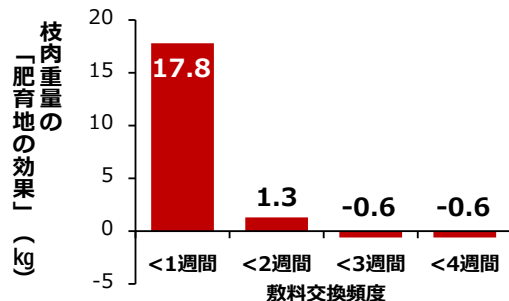


図1 枝肉重量の「肥育地の効果」と敷料交換頻度の関係

ある農家の枝肉重量の年次推移を期待育種価、「肥育地の効果」、枝肉成績でみたものを図2に示しました。2010年から2014年にかけては、枝肉成績の枝肉重量はほぼ一定で推移していて、一見問題が無いように見えますが、「肥育地の効果」の枝肉重量は低下する傾向にありました。「肥育地の効果」が低下するということは、肥育管理に問題点があることを示しているのです。このような場合は、肥育管理を見直す必要があります。

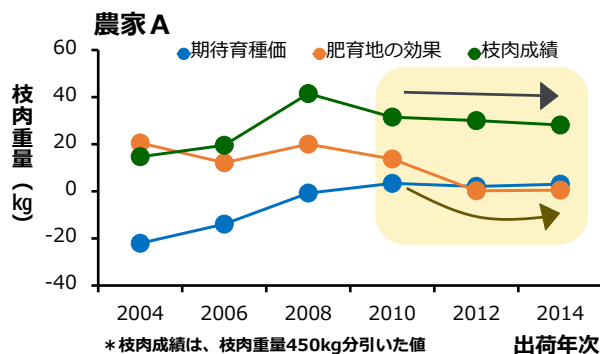


図2 「肥育地の効果」と枝肉重量の推移

これらの結果をもとに、畜試が「肥育地の効果」を算出し、(一社)北海道酪農畜産協会を通して、肥育農家に肥育改善チェックシートを提供する体制を作りました（図3）。今後は、「肥育地

の効果」を指標とした肥育改善チェックシートを活用することで、より客観的に各肥育農家の道内における位置、問題点や改善効果を見える化し、改善策を検討できるようになります。

平成28年 上川郡 新得町
(地独) 道総研畜試 様

「肥育地の効果」による肥育改善チェックシート

1. あなたの「肥育地（農家）の効果」 *直近の値（平成27～28年）

こんな形が理想!

- バランスの良い肥育管理ができています。
*好調のキープにつとめましょう。
- 枝重と脂肪交雑を高める管理は、皮下脂肪が厚くなりがち。
*皮下脂肪Aの種雄牛を選択しましょう。
- 枝肉重量Aの種雄牛を選択しましょう。
*遺伝系種雄牛の選択で、成績改善を行いやすいケースです。

こんな形は要注意!

- 脂肪交雑が高いけど、枝重が低いケース。
*ビタミンAコントロール（落とす）に注意しましょう。
- 枝重は高いけど、脂肪交雑が低いケース。
*ビタミンAコントロール（落とさない）に注意しましょう。
- 脂肪交雑や冬場の飲み水の加温など、牛がエサをしっかり飲み込み、ゆっくり休めるような飼育環境作りから始めましょう。

2. あなたの「肥育地（農家）の効果」の年次推移

年次	「肥育地（農家）の効果」					
	枝重 (kg)	ロース (cm ²)	ハラ厚 (cm)	皮下脂肪 (cm)	歩留 (基準値)	脂肪交雑 (基準値)
通年	効果 3.15 偏差値 0.29 ランク B	2.04 0.75 A	-0.07 -0.19 C	0.27 -1.37 C	-0.06 -0.43 C	-0.06 -0.25 C
平成17～18年	効果 -23.66 偏差値 -1.89 ランク B	-1.32 -0.83 C	-0.33 -1.80 C	0.13 -0.43 C	-0.12 -0.67 C	-0.02 -0.33 C
平成19～20年	効果 -14.59 偏差値 -1.11 ランク C	0.10 -0.53 C	0.02 -0.22 C	-0.23 1.02 A	0.13 0.39 B	-0.11 -0.90 C
平成21～22年	効果 10.13 偏差値 0.44 ランク B	0.82 0.02 B	0.18 0.38 B	0.42 -2.00 C	-0.27 -0.90 C	-0.11 -0.61 C
平成23～24年	効果 6.22 偏差値 0.18 ランク B	2.95 0.94 A	0.10 0.02 B	0.22 -1.02 C	0.32 -0.13 C	0.05 -0.12 C
平成25～26年	効果 -10.37 偏差値 -0.41 ランク C	0.14 -0.20 C	-0.12 -0.53 C	0.04 -0.26 C	-0.21 -0.46 C	-0.18 -0.82 C
平成27～28年	効果 9.73 偏差値 0.45 ランク B	2.25 0.72 A	0.24 0.68 A	0.34 -1.32 C	-0.02 -0.16 C	0.03 -0.03 C

***注1** 赤字は、直近のあなたの「肥育地（農家）の効果」です。 要改善!
***「肥育地の効果」**は、枝肉成績から算出するので、当該年次の「肥育地の効果」はその1～2年前の肥育管理の影響を示しています。（例：平成27～28年の「肥育地の効果」は、平成25～26年段階の肥育管理の影響）

枝肉重量

脂肪交雑

●直近における道内「肥育地（農家）の効果」の平均値および標準偏差

	枝重	ロース	ハラ厚	皮下脂肪	歩留	脂肪交雑
平均値	-0.33	0.45	0.02	0.00	0.04	0.04
標準偏差	22.50	2.49	0.33	0.26	0.38	0.31

●ランクの意味するところ 偏差値=(効果-平均値)/標準偏差

ランク	皮下脂肪以外	皮下脂肪	道内での位置
A	偏差値>0.67	偏差値<=-0.67	上位1/4以上
B	偏差値>0	偏差値<0	平均～上位1/4
C	偏差値<0	偏差値>0	平均未満

図3 「肥育地の効果」による肥育改善チェックシート

2017年 道内肉牛関連行事予定

ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会	10月7日（土）	帯広市・畜産公社
北海道枝肉共励会 (乳用雄肥育牛および交雑牛の部)	10月14日（土）	帯広市・畜産公社
北海道肉牛研究会大会	10月26日（木） -27日（金）	北見市・北見農業会館
北海道肉専用種枝肉共励会 (アンガス・日本短角)	11月9日（木）	帯広市・畜産公社
環境リサイクル肉牛協議会シンポジウム	11月9日（木）	帯広市・とかちプラザ
北海道あか牛枝肉共励会	11月17日（金）	安平町・畜産公社
北海道枝肉共励会（黒毛和牛の部）	12月2日（土）	帯広市・畜産公社

会費納入のお願い!!

2017年度年会費(個人会員 2000円)の納入をお願いします。

2016年度以前の会費を未納の方は至急納入して下さい(同封請求書を参照のこと)。

研究会は会員の皆さんからの会費で運営されていますので、忘れずに納入をお願いします。

*勤務先・住所等が変更になった場合は事務局までお知らせ下さい。

*退会の際には必ず事務局までご連絡下さい。